

変化を経験する

林 涼真

二年生になり、松本キャンパスから長野教育キャンパスへと移り、昨年よりも専門的な内容が増え、それに加えて新型コロナウイルスにより従来とは違う形の授業が行われるなど、変化したことが非常に多く、新しい大学生活が始まったようでもあった。

前期の授業がオンライン形式となることが決まったとき、私は、それほど問題はないのではないかと思っていた。しかし、昨年に比べて専門的な内容が増え、また教育に関連が深い授業が増えたことにより、前期の授業が終わった今、多少の不安がある。授業全体の内容を把握することについてはオンラインでも問題なくできる。しかし、実技的なもの、実践的なものについてはやはり例年と比べて欠けている部分が少ないからだろうか。こういった不安は、来年度の教育実習、またその先、教員になることを想像した際に、より明確に生じる。

しかし、こういった不安は、今年のような状況でなか

ったとしても生じたと思う。与えられた環境の中で、自分のできることを探して、適応していくことが求められているように感じる。変化に適応していくということは、教育の場でも少なからず大事になるだろうと思う。この環境と、それによって生じた様々な変化を、一つの経験として大切にしていきたいと思う。

(はやしりようま 信州大学教育学部国語教育コース二年)